

# 令和3年度第5回県立高校将来構想検討協議会における協議の概要について

## 1 開催日時、会場

令和3年10月25日（月）午前10時～正午 県庁4階 共用第2会議室

## 2 協議の概要

### (1) 次期県立高校将来構想（素案の検討資料）について

### (2) まとめ

今回の意見も踏まえながら、次期将来構想の素案を事務局がまとめることで全委員が了解  
次回は次期将来構想の案の検討資料について協議をする予定

## 3 委員からの意見

### (1) 「第2章 高校教育を巡る現状と課題について」

○ 「子どもたちのニーズの多様化」の部分に、中学生の進路希望調査結果について入れていただけるとよいと思う。

### (2) 「第3章 今後の県立高校の在り方について」

○ 地域・社会や地元企業と連携・協働した教育活動を通じて、多様な人々と交流したり、地域の歴史や文化に触れたりすることにより、豊かな心を育む教育が充実していくと思う。

○ 生徒と熟議をした際に、生徒が「地域の人から学べることがたくさんある」と実感していることを改めて知ることができた。至る所に地域との連携・協働の記載があることはよい。

○ 学校の統廃合等で教育の質は担保されるかもしれないが、遠距離通学をする生徒たちが負担を強いられることになるため、修学支援について、もう少し踏み込んだ記載をお願いしたい。

○ 日頃から、教員が生き生きと明るく生徒と関わってこそ、生徒が安心して、信頼して教員に相談することができると思う。そのためにも、働き方改革の推進は大切である。

○ 探究科は、理系だけでなく、文系においても生徒の興味・関心に応じた探究的な活動を実施しており、そのことが、生徒自身の将来の進路選択にもつながるのではないかと期待している。

○ 生徒同士の触れ合いや摩擦があることで、心が磨かれ、豊かな心が育まれる。そのためにも、安心して登校できる安心・安全な学校づくりの推進は大切である。

○ 新型コロナウイルス感染拡大の経験から、学校教育では、生徒同士が触れ合う教育活動や地域連携が大切だということを感じた。

○ 豊かな心を育む教育が充実することで、優しい気持ちをもった高校生が育つことを期待している。

○ 保護者としては、生徒には主体的に未来を切り拓いていく人材になってほしい。

○ 教職員のワーク・ライフ・バランスの実現に向けて、一人ひとりに負荷がかからないように取り組むことは大事である。

○ 「豊かな心を育む教育の充実」に、ボランティア活動や共に生きる教育といった内容の「福祉教育」について記載することも検討してほしい。

○ 地域の人との交流を通して、高校生と地域がつながることで、地域が学校をサポートする体制ができ、そのことが結果的に働き方改革にもつながるのではないかと。

○ 「生徒の価値観の多様化やSNS等が普及する中での規範意識の低下」という記載について、価値観の多様化やSNS等の普及はよいことであり、規範意識の低下とは別問題であると思う。

○ 「本県の将来を担う人材の育成」という記載について、県内に在住して地域・社会に貢献することはもちろんのこと、県外や海外から本県に貢献することも含まれているという理解でよいのか。

○ 山口県以外のどこからでも、山口県に誇りと愛着をもち、地域・社会に貢献することができることから、「生徒が将来山口県に定住し、働きたくなるよう」という記載については、狭い範囲に限定した恣意的な教育という印象を受け、違和感がある。

- 具体的にどういう修学支援をしていくのかについて、今後、しっかりと検討してほしい。
- 「施設・設備の整備」について、県外への流出を食い止めるという観点から、基礎的な設備よりも、先端的な設備の方をもっと強調した方がよいのではないかな。
- 働き方改革なしに教職員の資質・能力の向上はあり得ないと感じているため、もっと具体的に踏み込んだ記載をした方がよいのではないかな。

### (3) 「第4章 特色ある学校づくりと学校・学科の再編整備について」及び「第5章 将来構想の推進について」

- 生徒たちが多様な人と出会うことによって、色々な価値観を知ることができるため、一定の学校規模は必要であり、この再編整備の基本方針は非常によい方向性ではないかと思う。
- 多くの生徒が高校卒業後すぐに社会に出る工業高校にとって、高い使命感や倫理観、規範意識を身に付けさせることは非常に大切である。
- 一定の学校規模があれば、教員数が増え、働き方改革が進み、生徒と向き合う時間が確保できるため、ある程度の学校規模は必要である。
- 他校や他学科、大学・企業などと連携・協働することで、社会人として求められる力を身に付けることができるため、様々な学科で推進することは非常によいことだと思う。
- 定時制・通信制課程においては、不登校経験者や全日制課程からの転入学者もおり、自立して生き抜くことができる生徒を育成するためにも、生徒一人ひとりの実態を把握し、生徒の多様な生活スタイルや学習ニーズに応える教育の充実を図ることは大切である。
- 単独の専門高校は専門性を深めるために必要である。他学科と連携・協働することにより、生徒が様々な多様性を身に付け、知識を広げて社会に出ていくことも必要であると感じている。そのため、教科等横断的な学びや他学科との連携ができるような再編統合を進めてほしい。
- 再編整備は、地域からすれば寂しい気持ちになるかもしれないが、何よりも地元中学校卒業者の入学状況や、子どもや保護者のニーズが最終的な根拠になってくると思う。
- 変化に対応できる資質・能力、コミュニケーション能力や協調性など、本質的なことを学べる学校、人間性を育成する教育が重要である。
- 定時制・通信制課程において、自己肯定感を高め、キャリアを形成していくことは大切であり、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携した支援体制の充実や、地域との連携を推進してほしい。
- 県立高校の多様なニーズに応える教育環境が充実していく中で、公立と私立は教育の両輪であることから、私立高校通信制に対する県の支援も充実してほしい。
- 中高一貫教育については、公立・私立中学校との共存が図れるかということも含めて慎重に検討してほしい。
- 多様な生徒が、自分のよさを見付けていくために、様々な取組や場面を提供することが大切であり、そのためにも一定の学校規模が必要である。
- 中学校卒業見込者数の減少に対応しつつ、高校の役割や学科の必要性など、様々なことを総合的に勘案した再編整備の進め方になっていると思う。
- 普通科の改革は、スクール・ミッションとセットで考えていく必要があると感じている。
- 少子化や人口減少が進行する中、未来を担う子どもたちのために、魅力ある学校づくりや特色ある学校づくりに取り組んでほしい。
- 本県は分散型都市構造にあり、各市町によって状況が様々であるため、再編整備については、各市町と連携して取り組んでほしい。
- 地域・社会や地元企業等と連携・協働することは、高校までの居心地のよい環境から社会に出る際に起こるギャップを小さくできるという意味でも大切である。
- 不登校生徒や人との関わりが苦手な生徒にとって、学習やキャリア教育なども大切であるが、生活スキルの獲得のための教育も充実させてほしい。